資料1

今後の拠点の整備・運営体制等について（本日ご議論いただきたい事項）

1　市町等との役割分担について

＜「北海道における縄文世界遺産の活用のあり方」＞Ｐ１７より関係部分抜粋

第４章　北海道がめざすもの

３　各主体の役割と基本的な姿勢

将来像の実現には、これまで「北海道の縄文」を守り、その価値を継承してきた地域の人々をはじめ、行政や民間事業者など多様な主体が、めざすべき方向性を共有し、それぞれの役割を補完しあうことによって取組を進めていくことが重要となります。

【各主体に期待される役割（機能）】

○北海道　北海道全体の取組を一体的に進めるための総合的な戦略のもと、普及啓発や情報発信を行うとともに、地域の取組が円滑に進むよう連携の場を構築し、将来的に「北海道の縄文」を活かした取組の中核を担う組織（以下、「中核組織」という。）の育成やサポートを行います。

○市町村　各遺跡の保存活用を地域住民や地域の活動団体、民間事業者等と連携して進めます。

○地域住民・地域の活動団体　道及び市町村と連携した保存活用に取り組むことや、新たな価値を創造していく担い手となることが期待されます。

○民間事業者　自らの得意分野等において各主体と連携し、遺跡の保存活用や新たな価値を創造する取組への参画が期待されます。

＜「北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方」＞P29より関係部分抜粋

第６章 まとめ

３ 目指すべき将来像 ～未来へつづく、一万年ストーリー。

今回取りまとめた「拠点機能のあり方」に基づき、官民の多様な主体の連携により、民間活力なども積極的に活用しながら、本道における世界遺産活動の担い手となる拠点の形成に向けた取組を進めていきます。

また、拠点と各市町のガイダンス施設などとの連携により、縄文世界遺産を適切に保存し、その価値を継承する人材を育成するとともに、その魅力を多くの人々に発信することで、遺跡を起点とし、観光振興、地域経済の活性化との好循環など、地域における賑わいの創出を目指します。

＜第３回懇談会における意見＞

- 遺跡やその背景となる自然と、今この地域に生きる方々の暮らしや文化を繋ぐことや、その共感力が大切な欠かせないポイント。遺跡は以前からもこの先も地域の中に存在するもので、拠点形成は地域の未来をどう作っていくのかということであり、地域の方々と共に作っていくものでもある。
- 旅行を造成する際のベースは地元の繋がり。トラベルデザイナーが１件１件連絡して予定を組むことは難しい。地元の誰かが地域内で連絡調整を行い、トラベルデザイナーに連絡すると、デザイナーは世界的な旅行博で情報を出して、お客様を獲得する構造になっている。誘客機能を議論する際、地元との繋がりをどのように構築するのかかが最も大切である。
- 個々の自治体にある構成資産のガイダンス施設とどのように連携していくのか。それぞれのガイダンス施設に在籍している個性を持った学芸員の方々を活かすシステムをどのように構築するか、ということを真剣に考えたい。

２　拠点の整備･運営体制について

＜「北海道における縄文世界遺産の活用のあり方」＞Ｐ２７より関係部分抜粋

第６章　将来像の実現に向けて
３　持続可能な運営のあり方

持続可能な取組のためには、推進体制や人材だけでなく運営資金を確保する仕組みも重要となります。

特に、来訪者の満足度を高め、保存と活用の双方が相乗効果を生み出していくためには、持続可能な運営の仕組みを確立することが重要であり、体験型ふるさと納税等の行政からの資金や地域活性化ファンド等からの投資、コンセッション方式の導入など多様な資金調達や運営手法について検討していく必要があります。

＜「北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方」＞Ｐ２６より関係部分抜粋

第５章 機能実現のための組織や運営の手法
２ 運営体制について

一方、行政と民間が連携して、互いの強みを生かすことにより、地域の価値や住民満足度の最大化を図る民間連携（PPP）の手法を活用する場合には、マネジメントを適切に行う能力を備えた民間事業者等と連携・協力することにより、民間資金や経営能力及び技術的能力を有効に活用できることから、最適な公共サービスの提供が実現可能になるものと考えられます。

＜第３回懇談会における意見＞

- 拠点機能を本庁にという話。場所として本庁は永続するかもしれないが、部署が改廃されるなど、行政組織は永続ではないので、拠点は外部組織にする考え方もあるのではないか。行政組織と結びつけない方がよいと感じた。
- 今後、道の予算が減少する中、どのようにして拠点を整備し、20 年 30 年維持していくか、についても併せて考えていく必要がある。世界や日本の投資家から資金を呼び込むなど、公民連携を考えながら拠点の整備を進めるということも、頭の片隅に置いておく必要がある。
- 民間の力を導入した方がよい。その場合には、南茅部では様々な実績があり、際立っているところがある。南茅部の拠点においては、そのような運営の仕方で成功例を積み重ねていき、他のエリアに伝播していく、そのように進めていくことが現実的で早いのではないかとイメージしている。